



## 工程

### ●令和3年7月9日（金）吹付



法面へセンチピードグラスの吹付は、できるだけムラがでないように気を付けながら作業をおこなった。

### ●令和3年7月16日（金）灌水



灌水時に1cm程度の芽が出てきていることを確認。

●令和3年7月23日（金）灌水



センチピードグラスも成長してきているが、それ以上に雑草が伸びてきている。

●令和3年7月30日（金）灌水



アサガオがセンチピードグラスの上を這い始めてきた。

●令和3年8月5日（木）灌水



カヤツリグサ・アサガオ等の雑草に覆われているものの、その下にはセンチピードグラスが育っている。

●令和3年8月19日（火）高刈（1回目）



センチピードグラスに陽を当てるため、覆っていた雑草の高刈（1回目）を実施。高刈後の刈草については、刈りっ放しとしないように回収した。

●令和3年8月31日（火）高刈（2回目）



高刈をしても短期間で雑草が元通りとなってしまったため、高刈を実施。

●令和3年9月15日（水）確認



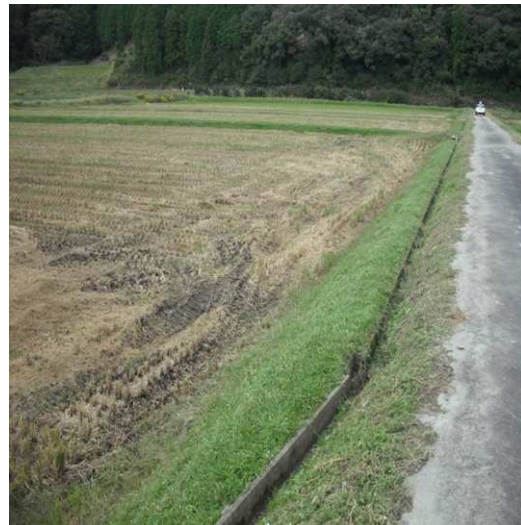
生産者様で刈った刈草が放置されており、センチピードグラスは枯れてしまっていた。

●令和3年9月15日（水）確認



新たにスギナ・メヒシバが顔を出し始めている。

●令和3年10月20日（水）高刈（3回目）



高刈後に刈草の除去をおこなった。自社管理したエリアについては、雑草はあるものの天端を中心にセンチピードグラスはしっかりと繁茂してきている。

## まとめ

水田農業において畦畔除草などの維持管理作業は必要不可欠であるものの、高齢化が進む農家にとって多くの労力を要し、特に傾斜の多い中山間地ではその維持管理の負担が大きく、畦畔維持管理の省力化が望まれている。そこで、除草作業を必要としている畦畔や法面に芝の一種で雑草の育成を抑え、定着性に優れたセンチピードグラスの種子を吹付芝生化し、除草管理を最小限に抑えることを目的とした畦畔維持管理省力化事業の取組（センチピードグラス吹付事業）について、実用実験を行った。

結果としては、吹付施工後から生育期までの水分量が重要となってくる時期に灌水作業を実施したことや、発芽後の高刈作業の実施など、センチピードグラスの生育に必要なメンテナンスがしっかりとできたことで繁茂している状態とすることができた。しかし、その後、生産者が草刈を実施した際の刈草が放置されたため、繁茂したセンチピードグラスに日光が当たらず成長阻害したことにより、広いエリアで枯れ、一部エリアのみ繁茂している結果となってしまった。

今後の課題としては、生産者に対しセンチピードグラスの特性を十分理解させた上で、吹付後の灌水や高刈、刈草のメンテナンスを確実に実施してもらう必要がある。今回繁茂したエリアについては、年5回程度実施していた草刈作業が次年度2~3回程度（吹付前比40%~60%軽減）になり、それ以降についてもランナーの被覆が進み、年1~2回程度（吹付前比60%~80%軽減）の草刈となることが期待される。今年度においても、センチピートグラスの吹付を行うことにより、年4回の草刈作業で済んだため、草刈に要する時間が20%軽減された。以上の状況も踏まえると、畦畔維持管理の省力化に繋がる取組として一定の効果があったと判断することができ、棚田地域等の保全・振興に寄与するものと考察する。